

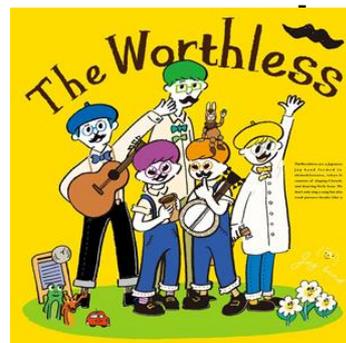
くらき永田保育園便り



さて、今年も残すところ一ヶ月となりました。そして、いよいよ明日、2日（土）は発表会です。運動会に引き続き「子どもが計画段階から参画し、そして、表現したいものを自分で選ぶ」という「ごっこ遊びの延長」のような発表会となります。大人目から見ると「うまくいった・いかなかった」「成功、失敗」に見えるかもしれませんが、保育園の遊びにはそんな視点はありません。子どもたちが面白いと思って表現したありのままを楽しんでいただけたらと思います。豊かな表現活動はモノやヒトとの関係性の中で湧き上がってくるものだと感じています。保護者の皆さんの温かい視線や大きな拍手が子どもたちの主体性を引き出してくれるのではないかと期待しています。今年もコロナ感染拡大防止という観点から様々な制限をお願いするかもしれませんが、“子どもたちが気持ちよく表現活動ができる”ことを最優先に準備を進めたいと考えています。

12月は音楽月間になりそうです

12月といえば発表会やクリスマスが頭に浮かびますが、今月は特別に音楽と触れ合う時間がたくさんあります。昨年に引き続き18日にはNTT東日本東京吹奏楽団の有志の皆さんが来園し、子どもたちに人気の曲をクラリネット・ユーフォニア・サクソなどでの生演奏を体験できます。昨年もめったに聞く機会がない楽器での演奏に身を乗り出してカラダを揺らしていた子どもたちの姿が忘れられません。演奏開始は15:40分からですので早めのお迎えをされる保護者の皆さんは是非一緒に楽しみましょう。また、わらべうたの久保先生による紙芝居に合わせたピアノ演奏会、さらに、12日にはサマーソニックなどのフェスでも人気沸騰中の踊るマリオネットと歌うひげのジャグバンド、The Worthless がくらき永田保育園に初登場（保護者会の費用を活用してもらいます）します。



冬至は「ぼ～燃会」です

もはや年末の園庭の風物詩にもなってきた「園庭でぼ～っと火を燃やす」「ぼ～燃会」を12月22日冬至の日の夕方16時半～18時半の2時間、園庭で行います。お迎え後の短い時間ですが焚き火をしながら薪がはぜる音を聞き、のんびりとしたひと時を過ごし一年の疲れを癒したいと思います。今年も「おやつ以上、夕食未満」の食材持ち込み大歓迎です。長時間の語らいを楽しむ方は近隣の駐車場を活用し、送迎に支障がないようご注意ください。

各クラスの子どもの見ている視点をお伝えします！



にこにこ

にこにこ組では、天井からビーチボールを吊り下げて遊んでいます。子どもたちはボールに触れたくて一生懸命手を伸ばしてつま先で立ったり、まだ歩けない子どもも離れたところから手を伸ばして触れようとしています。ボールに触れるととても嬉しそうです。でも、手が触れてボールが揺れると、あっという間にボールを見失ってしまいます。ボールを再び視野に入れる為に、クルクル回ったりウロウロ歩いたり、上を向いて尻もちをついたり。どうやら、想像以上に見えている範囲が狭いようです。

先日、ふれあいデーの中で、にこにこ組の保護者の皆さんに、幼児の視野を体験できる紙のメガネをかけて、頭上のボールに触れていただきました。メガネをかけていない時と違って見えにくくなるので、手探りで探したり、上を向き過ぎて「おっと」とバランスを崩してしまったり、「ほんとだ、見えない」という声が聞かれました。

幼児の視野は垂直・平行方向共に大人の6割程度だそうです。乳児ならもっと視野が狭いかもしれません。また、視力は6歳頃で成熟しますが、1歳では0.2程度しか見えていないそうです。

子どもたちの見えている世界はとても狭く、大人や子ども同士の関わりの中で、急に視野に入った物に驚いたり、怖がったりしているかもしれません。優しく声をかけてそっと視野にはいることを心がけたいですね。



よちよち

子どもたちの目線になってみると新たな発見や面白いと感じることがあり、大人では想像できないものがあります。保育室にはたくさんの窓があり、その中でも園庭側の窓際に背伸びをしたり窓枠にぶら下がったりしている姿をよく見かけるようになりました。そこで子どもたちの目線になってみるとそこからは外が見えないことを知り、子どもたちは外の景色を見ようとしていることに気がきました。しばらく経ってから新しいお部屋の玩具として牛乳パックで作った積み木を出しました。すると子ども自ら積み木を窓際に横向きで置いて、それを足場にして外を見ようとしている姿がありました。しかし横向きでは高さが足りず、見えづらいことに気付いた子どもたちは積み木を縦に置いて外を見始めました。もちろん大人は教えていません。子どもたち自身で工夫して、どうしたら見えるのかを考えていました。大人からすると何気ない景色ですが子ども目線になってみると不思議がたくさんで好奇心から色々な発想が芽生えるのだと思います。私たち大人も一度子どもたちの目線になってみることを大事にしていきたいです！





すくすく

すくすく組では、自分たちでイメージした物を玩具で作る構成遊びを多く取り入れています。今回はその中でも、ペタペタブロックという玩具を紹介します。自分なりに長方形や中心に穴の空いた正方形のパーツを方向を選ばず上下左右に繋げられます。今では、自分のイメージ通りに組み合わせて車や電車を作って友だちや保育士に見せたり、机の上で乗り物に見立てて動かして楽しんでいます。乗り物の種類によって動かす速さを変えていくなど遊びを展開させていて、見ている保育士も楽しませてくれています。丸い形のパーツがクルクルと回転することから大人はタイヤをイメージすることが多いと思いますが、子どもたちからすると戦車の砲の一部に使っていたりと想像を膨らませていました。その他のパーツでも、子どもたちが試行錯誤しながら上に積み上げたり、凹凸の部分にはめ込んだりと工夫しています。大人が想像できなかった子どもたちの新しい発見がお家でもあれば、教えて頂けると嬉しいです！



異年齢

子どもたちの見ている世界が面白いな～と感じた園庭での保育場面3つを紹介したいと思います。

Fちゃんは園庭遊びに出ると遊具に向かって走り出しましたが、途中で立ち止まり「見て」と空を指さしていました。その先にはうろこ雲が広がっていて「ひつじみたい」と保育士に伝えて走って遊びに行っていました。そういえば自分も子どものころは空を見上げて空想したりして楽しんでいた時代を思い出し、大人になった今もそういった感性や気持ちの余裕が大切だと教えられた気分になりました。

また、園庭では木の枝を集めて中央で結んだものをオブジェとして数か所に吊るしているのですが、「蜘蛛がいるよ」と木の枝を蜘蛛に見立てて、子ども同士伝え合って楽しむ姿がありました。この枝は保育者が子どもたちの制作意欲に繋がればという思いで作ったものなのですが、子どもたちとしては「木にぶら下がっている蜘蛛」という視点や発想が「作ってみたい」という気持ちに繋がったのだと思います。子どもの興味関心を高める環境作りは保育士の永遠のテーマです。

最後に、樹を遊び道具に変えてしまう柔軟な思考が感じられた場面をお伝えしたいと思います。縄跳びの縄を木の枝にくくりつけ、リレー用の丸型ボタンをその先に結んだオリジナルの遊具をどのように遊ぶのかを観察していると、2本いっぺんに使ったり、子どもによっては1本で使ったり、立って乗ったり、足を太ももの付け根まで入れて座って漕いだり、時には縄を交差させ、回転することを考えて遊ぶ姿もありました。過去の体験を参考にしながら自分たちで面白そうだと考えたアイデアを形にし、遊びだし、それをさらに工夫しながら様々な遊びを開発していく活動は本当に創造性に溢れていて感激してしまいました。

大人からすると見過ごしてしまいそうなモノやコトを全て楽しい遊びに変換していく子どもたちからは学ぶことばかりの毎日です。



給食室

11月の半ばから、農家のスズキさんの畑で「さんとう菜」が採れるようになり、給食でもさんとう菜を使う機会がありました。

見た目は白菜によく似ていますが、結球せず白菜ほど大きくならないのが特徴で、関東では「べか菜」と呼ばれることもあるそうです。

さんとう菜は栄養価も高く、特にビタミンC・ビタミンK・葉酸が多く含まれていて、これらの栄養素は骨や血液を作る役割を持っています。

味はアクがなく、葉が柔らかいのが特徴で、スズキさんにおすすめの食べ方を聞いてみると、

「シチュー、ミルク煮、汁物やお鍋の具、中華炒め、生のまま塩もみして浅漬けみたいにしても美味しいよ」と答えてくれました。

ちょうど今が旬のさんとう菜、スーパーなどお店で見つけたときは、ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか？

また、スズキさんの畑ならではのお野菜が登場したら、おすすめの食べ方など、随時お伝えしていきますので、どうぞお楽しみに！



食育係より

今回はにこにこ組の食育について、お伝えします。

にこにこ組では、「食べることを楽しむ」をテーマに食育を進めています。

4月にはミルクを飲んでいたり子どもたちですが、離乳食から食べ始め、給食を食べている子どもも多くなりました。

生まれて1年ほどの子どもたち、食べる事も食べ物と出会うことだって初めてのことがたくさんあります。食材と仲良しになれるように、夏にはウッドデッキでゴーヤとオクラを育てて、みんなで触れたり、氷にしたり、スタンプにしたりして遊びました。ゴーヤのゴツゴツした感触を楽しんだり、恐る恐る指先だけで触れてみたり、反応は様々でした。

時々、調理室までお散歩して、ご飯を作っている様子を見たり、たくさんのりんごやバナナの山を見たりしています。大量の食材を不思議そうに見ています。

日々の食事では、食べさせてもらう事から、自分で手掴み食べを始め、少しずつスプーンを使うようになった子どもたち。自分で食べたい気持ちを大切にしながら、子どもたちがより良く食事を進められるように、姿勢やスプーンの持ち方、運び方など観察し、介助しています。また、遊びの中で食事の場面に必要な指先・手首・腕等の動きができるように玩具を準備し誘ったり、反対に遊びの中の動きから、そろそろスプーン使えそうだね、と話したりしています。最近はお友達と一緒に食べることもあり、お友だちの様子を見て、普段は食べない物を食べてみたり、スプーンを使ってみたりする事も出てきました。

これからも、食事の時間だけでなく、日々の保育の中から楽しい食事に繋げていきたいと思えます。



今月の行事

2日(木) 発表会

5日(火) クーベルチップさん読み聞かせ・絵本マルシェ

9日(土) 布団乾燥

12日(火) The Worthless 絵本コンサート

18日(月) 東日本東京吹奏楽団 音楽会

21日(木) 久保先生わらべうた

22日(金) ボー燃会

25日(月) クリスマス会

★ 9～17日 LED化工事（保育に支障がないよう工事を進めます）